

安全、安定的供給に期待

九州地方整備局川内川で行われ、国交省九地整
工事事務所(松石忠俊所
長)が主体となって進め
ていた川内川塩水遡上対
策事業の竣工式が14日、
薩摩郡東郷町斧洲地先の
斧洲共同予備取水施設内
水・農業用水にと、安心



取水開始ボタンを押す関係者
=東郷町の現地で

して安全に安定的に供給
される同事業の竣工を祝
った。

式では、渡邊茂樹九地
整局長が「平成4年に塩
水遡上による取水障害が
発生、6年には全国的な
渇水により取水被害が顕
著化し、取水口の土流部
への移設を計画、東郷町
及び地権者各位の快諾に
より、この場に素晴らしい
施設が竣工したことに
感謝する。散策や憩いの
場となる施設となってい
るので「利用下さい」と
式辞。次いで、森市長が
「丸山浄水場からの給水
が6年には塩辛い状態に
なり、青英小前のエアレ
ーション、緊急導流堤の
設置による塩水楔の進入
抑制、取水口の堰板調整
など、あらゆる手段をつ

たき、ここに安心して安
全に安定的供給できる施
設が竣工したことを感謝
します」と挨拶。

続いて、松石所長が
「10年に管皮膜推進工法
や刃口式推進工法などを
用いて28000以上の導水
管理設置手、11年に取水
施設に着手、総事業費は
40億8700万円、うち
国庫負担(河川浄化費用
含む)38億1300万円、
県負担(農水)が840
0万円、川内市上水・工
水・中越パルプ負担が1
億9000万円」などと
工事経過報告。宮路和明
衆議(代議)、松下忠洋
衆議(同)、須賀龍郎県
知事(同)、森重正堂東
郷町長などが来賓祝辞を
述べて式典を終え、関係
者が取水開始ボタンを押
した後、川内市の木「く
ろがねもち」を八幡幼稚園、
東郷町の木「梅」を
若あけ保育園の園児が記
念植樹した。

鹿児島市事業評価監視委

吉野区画整理継続へ

公共事業の効率性及び
実施過程の透明性の一層
の向上を目的とする鹿児
島市事業評価監視委員会



現場視察で説明を受ける委員ら
=鹿児島市の現地で

は14日、同市の吉野区画
整理事務所で開き、鹿児
島都市計画事業吉野地区
土地区画整理事業につい

て再評価を行い、継続す
べきと判断し、市長に答
申した。

事業概要の説明を受け
た後、委員らは馬口場川
雨水貯留施設や造成現場
を視察し、委員からは進
捗率や現状の様子、今後
の方針などを質問が出さ
れた。

同事務所に戻ってから
再評価チェックリストに
基づいて意見を集約。地
元の意向を踏まえた事業推
進がなされ、早期完成を
強く望まれており、事業
進捗も年々向上している
ことなどから、コスト縮

14年度県森林・林業振興大会

かごしま材の利用促進

14年度県森林・林業振
興大会(県、県森林組合
連合会ほか25団体主催)
が14日、鹿児島市の市民
文化ホールで開かれた。

大会式典では、初めに
大会会長の須賀龍郎県知
事が「住宅着工戸数の低
迷等により、林業・木材



各種褒賞授与などもあった大会
=鹿児島市の市民文化ホールで

産業を取り巻く環境は大
変厳しいが、一方では環
境問題を背景に、森林が
果たす国土保全、水資源
の確保など、重要な役割
が果たされている。大会
では、①間伐の徹底
で恵み豊かな森林づくり
を推進②かごしま材の利
用促進③県民参加による
緑化推進などの大会ス
ローガンを採択した。

最後に、①間伐の徹底
で恵み豊かな森林づくり
を推進②かごしま材の利
用促進③県民参加による
緑化推進などの大会ス
ローガンを採択した。

経営人間学講座 目標管理入門編講座

「能力」と「思想性」が必要

経営人間学講座南九州
事務局(池田剛代表)主
催の「統合の原理に基づ
く目標管理」入門編講座
が14日、鹿児島市で次郎
のマルンパレスかごしま
であり、鹿児島、宮崎の



企業主ら130人が受講した経営人間学入門講座
=鹿児島市のマルンパレスかごしまで

企業経営者ら約130人
が受講した。講師は経営
人間学講座主宰で宗教法
人妙見閣寺代表役員竹
内日祥上人。全国各地の
大小民間企業や公共団体
のセミナーに講師として

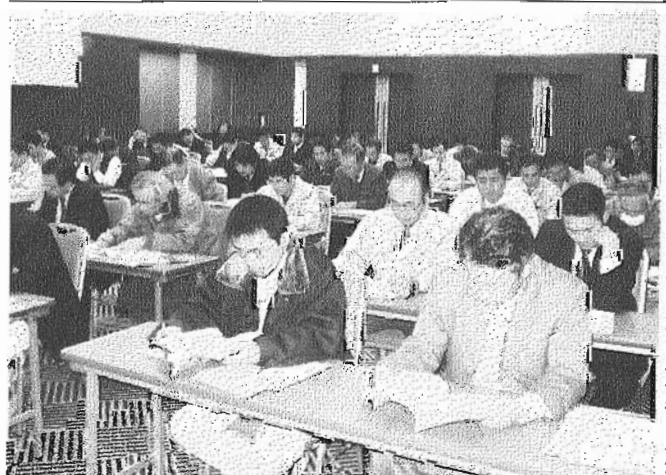
も満席の盛況ぶり。鹿児
島での開催は今回初めて
になる。

主催者を代表して池田
氏は「私もこれまで
色々なセミナーや講座を
開き、色々な講師を招い
て勉強してきたが、行
き着いたのはこの経営人
間学講座だった。今講座
は激動の時代、企業経営
が抱える問題解決の糸口
になると確信している」と
挨拶。

竹内上人は、「初めて
鹿児島に入った。熱心で
真面目な経営者がいっぱい
いるのに安心した」と
前置きして演題の講話に
入った。冒頭「目標管理」
についてふれ、この言葉
はアメリカからの輸入で
日本の経営者にもよく親

自主責任を末端まで

(例)池田組九州支店(木
村壽支店長)は14日、鹿
児島地区の会員ら約90人
らで15年度安全衛生管
理一文南九州支店長



会員ら約90人が参加して開かれた方針説明会
=鹿児島市のマルンパレスかごしまで

常松安全環境部長らが
今年度方針「基本とルー
ルを守り、快適な職場環
境で災害ゼロの達成」に
ついて説明。その中で、
施工計画段階での安全
性の検討や現場安全巡視
の検討や活動の重要性に
ついて述べ、特にパート
ナーとしての協力業者に
自主管理能力の向上や安
全施工体制を強力に推進
するために、末端に至る
まで自らの責任で周知徹
底を図るよう、指導があ
った。最後に九州支店の
瀬戸副支店長と九州支店
安全衛生協力会の大平重
隆副会長が所信説明をし
た。

しまれているマネジメ
ント手法だ。だが、日本
では誤解されて使われて
いるため本来の成果は出
ていない。本来の定義は自
主性や自己統制に基づい
て目標を達成しようとし
る管理手法のことである。
いま企業に必要なものは
「能力」と「思想性」の
2点。経営者は思想家
でなければならぬ、とい
うのが私の持論。経営
者が高い思想をもってい
るか、どうかだ。不況に
強い企業、不況になれば
業績が向上する企業を見
てみると、思想の価値が
分かる経営者はいしは幹
部にそういう人たちがい
る、ということだ等と話
した。

【講話要旨は後日掲載】